

海上保安大学校煉瓦ホール

第二次世界大戦後、旧海軍工廠の多くの工場や倉庫は、1952年に呉に移転した海上保安大学校のキャンパスビルとして再利用された。しかし、大学校の拡大と近代化に伴い、これらのレンガ造りの建物の多くは破壊され、入れ替わってしまった。現在は、赤煉瓦ホールの他に、アンカー保持力試験室（1891年築）と教室（1933年築）の当時の建物の一部が残っているだけである。

赤煉瓦ホールは、1914年に火薬工場の機械室として建てられた。第二次世界大戦の空襲にも無傷で耐え、外観は当時のままの姿をほぼそのまま残している。平屋建ての建物は長さ36メートル、幅8.6メートル、面積312平方メートル。元々あった木製の床板はコンクリートの床に張り替えられている。屋根は木製のフレームに厚形スレートで覆われている。

赤煉瓦ホールの西洋建築様式は、日本帝国海軍と英国王立海軍の強い関係を物語っている。また、呉がいかに関西の影響を受けて形成されてきたかを示す例でもある。赤煉瓦ホールは、2017年に呉市の有形文化財に指定された。現在は海上保安大学校が多目的ホールとして使用している。